



けが（切り傷）をすると、痛いのはなぜ

皮ふにはいろいろなものを感じるしくみがある

けが（切り傷）をすると痛いのは、皮ふに、痛さを感じるしくみがあるからです。

皮ふが感じとるものには、痛覚（痛さ）・触覚（さわる）・温覚（温かさ）・冷覚（冷たさ）・圧覚（おす）などがあり、それぞれを感じるところ（点）は別々です。そして、これらの点は、数の多さは別として、かたよることなく混じり合っ、全身の皮ふにちらばっているのです。ですから、けが（切り傷など）をすると、痛いのです。

けがをしても血が出ないことがあるのは

体のすみずみまで、ほとんどのところには血管と神経があります。それで、切るなどのけがをすると、血が出たり、痛みを感じたりするのです。

ところで、わたしたちの体の皮ふは、表皮・真皮・皮下組織の3階建てになっています。血管や神経がきているのは、表皮の下の真皮の部分なので、ここを切るなどのけがをすると、血が出たりします。しかし、表皮だけだと、血が出たり痛みを感じたりしません。

つまり、体の外側の皮ふ（表皮）には、血管も神経もきていないため、切ったり皮ふがむけたりしても、血が出たり痛みを感じたりしないのです。（監修・保志 宏）

自由神経終末（痛い） マイスナー小体（触覚） ルフィニ小体（温かい）
 クラウゼ小体（冷たい） パチニ小体（おしている）

